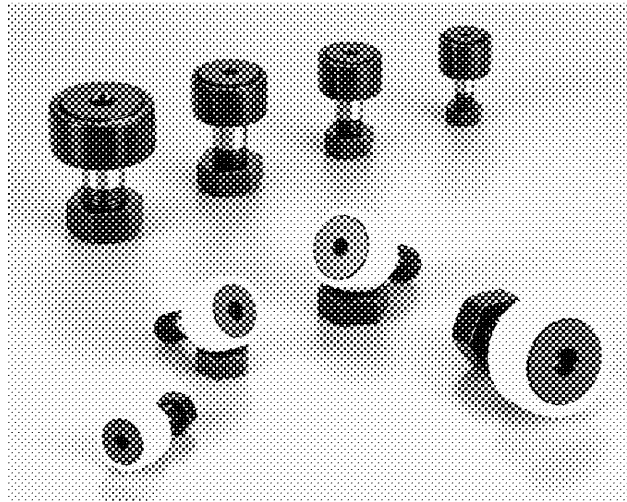


# 外輪に樹脂 軸受小型化

## 鉄製並み 一体成形で実現

### 日本ディック、年5千個販売



「衝撃吸収タイプ(TPU)」「自己潤滑タイプ(POM)」

【名古屋】日本ディック(名古屋市中区、中島康社長)は、搬送装置のガイドローラーなどに用いる軸受「CFL樹脂外輪付きカムフォロア」を発売した。外輪が樹脂のタイプで、従来より外輪外径を小さくし、鉄製の外輪並みのサイズを実現。鉄製からの置き換えを容易にした。価格はオープンだが、市場に受け入れられやすい値段で提供するという。年間5000個の販売を目指す。

新製品は中国の優必収する「衝撃吸収タイプ(上海)精密軸承製プ(TPU)」と、同造(UBC上海)が生タイプより変形が小さく、許容荷重が大きく、潤滑性が高い樹脂を採用した「自己潤滑タイプ(POM)」の2種類の樹脂タイプを

選べる。また、スタッド径は6mm、8mm、10mm、12mmの4種類を用意した。

外輪が樹脂のカムフォロアは鉄製に比べ静音性が高く、装置側を傷付けにくく、給脂が不要といった利点がある。ただ、鉄製外輪の外側に樹脂を圧着して製造するのが一般的で、外輪外径が鉄製より大きくなる課題があった。新製品は外輪を樹脂と鋼板で一体成形し、鉄製と同寸法にすることを可能にした。中島社長は「外輪がソフトなものは、使い勝手が良いが、外径が小さい製品は今までなかった。広く知られれば、反響があると思う」と話している。